

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

ひとがすき まちがすき いわさきの子
 (知)ともに学び合い、ねばり強く解決していける子を育てます。
 (徳)自分も友達も大好きで、心豊かに正直に生きる子を育てます。
 (体)心と体の健康を鍛え、自分や人の生命と体を大切にすることを育てます。
 (公)「ひとがすき、まちがすき、いわさきの子」をめざし、地域と豊かにかかわり、共に生きる子を育てます。
 (開)様々な人々とのコミュニケーションや体験を通して、日本や世界の文化や歴史を学び、社会の変化に対応できる子を育てます。

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

資質・能力	具体化した資質・能力
＜自分づくりに関する力＞ ～豊かにかかわり合い、自分のよさに気付く～	伝え合うことで、自分の考えを深化させる力 課題に対応する力 他者を理解する態度、自己を理解する姿勢 自分らしさを発揮しようとする姿勢

中期取組目標

◎人権尊重を基盤とし、児童一人ひとりを徹底的に大切に学校づくりを推進します
 ○自ら課題を見付け、自分なりの考えをもち、他者と協働して解決する、主体的・対話的で深い学びの実現を目指します。
 ・1年目は、粘り強く課題に取り組み、対話を通して解決していく授業づくりを推進します。
 ・2年目は、自分の考えを分かりやすく他者に伝えたり、他者の考えを理解したりするコミュニケーション力を高めます。
 ・3年目は、豊かなコミュニケーションを通して、自分の考えを深化させ、自らのよさに気付けるようにします。
 ○まちの「人」とのつながりを大切に、豊かな体験を通して、いわさきのまちを愛する心を育てます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①児童の実態を基に、自ら問題を見付け、豊かにかかわり合い、ねばり強く学びをつくっていくカリキュラム作りに取り組む。個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を目指す。②各学年で基礎的学習習慣が身に付くよう指導を丁寧に行う。③学年内・校内での教材研究に努め、人権的視点も意識した授業力の向上を目指す。
担当	教務部・重点研推進委

学力向上に関わる本校の状況

豊かにかかわり合い、自分のよさに気付く子どもの育成を目指し、主体的・対話的で深い学びを実現し、確かな言語能力を育む授業づくりを国語科を中心に研究を続けてきた。単元構成や授業展開、言語環境の充実に重点を置き、学校全体でよりよい授業づくりを意識して取り組んできている。全体で豊かにかかわり合い、自分のよさに気付く子どもの姿を具体化したことで、少しずつ成果が見られている。相手意識・目的意識を明確にし、適切な言語活動を設定した単元づくりは各学年でしっかり定着し、他教科の授業作りにつながっている。また、言葉の質や量を増やしていくための語彙指導を学校全体で進めたことで語彙が増え、自信につながることもコミュニケーション力の向上につながっている。
 しかし、必要感をもって子ども達自身で問題を発見し、ねばり強く学びをつくっていくところにはまだ課題が見られる。また、学びを作っている中で自分の考えを深めたり、広げたりするために、教師の授業での役割を見直し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実について改めて考えいく必要がある。身に付けたい力とその具体的な子どもの姿を明確にし、児童の学力向上につなげていく。そして、仲間を受容されることで、自分の考えに共感してもらうなど自分のよさに、さらに目を向けられるように支援していきたい。

今年度の目標

豊かにかかわり合い、ねばり強く学びをつくっていく子どもの育成を目指して
～探究的な学習のよさを実感できる単元づくり～

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	○「豊かにかかわり合い、ねばり強く学びをつくっていく」姿を明確にし、岩崎小で育みたい資質・能力を全体で具体化する。 ・研修・地域めぐり等を中心に、地域の材を開発する。 ○年間を見通して、どの単元でどう見方・考え方を働かせるか検討する。 ・生活科・総合的な学習の時間を中心に研究を進め、年間学習計画をしっかりと作成していく。 ○主体的に取り組むための環境作りを丁寧に行っていく。 ・各学年に応じた図書資料の充実を図る。 ・授業内でICT端末を効果的に活用できるように研修を行う。
下半期	○単元構想提案や一斉研指導案検討を通して、目標に合わせた授業づくりを行っているか確認する。 ・目標に合わせた授業作りになっていたかに焦点を当て、研究協議を行う。 ・自分の授業力を向上させていくために、振り返りや課題を記録していく。お互いの授業を参観し学んだことを蓄積し、日々の自らの授業づくりにいかしていく。 ○年間学習計画を見直し、再構成していく。 ・学校・学級の実態に合わせたカリキュラムになっていたか全体で検討する。 ・1年生から6年生までの系統性を意識して見直ししていく。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	①道徳の時間及び日常の教育活動において、基本的な生活習慣の形成を中心とした実践的態度を養う。②人権週間及び日常の教育活動において、児童相互の意見交流や認め合う活動を取り入れ、自尊感情を高める。③教職員の人権意識を高められるよう特別支援の研修等、多様性に目を向けた研修を行う。
担当	児童指導・人権部

豊かな心に関わる本校の状況

日頃から児童が基本的な生活習慣を身に付け、気持ちのよい学校生活を送ることができるよう、挨拶や廊下の右側歩行についての取り組みを行っている。年間を通して呼びかけているが、児童全体を見ると十分に達成できているとはいえず、今後も継続して取り組む必要がある。また、年間計画に基づいて、たてわり活動を行っている。他学年との交流を通して、発達段階に応じた関わり方や互いを認め合う気持ちが育ってきている。
 人権週間では「子どもの社会的スキル 横浜プログラム(YP)」を活用し、「自分づくり」～自他のよさを見いだす内容の活動を全学年を通じて行っている。この活動は、人間関係づくり・自分や友達の良さの発見などにつながる活動となっている。また、日常の教育活動においては、意見交流や認め合う活動を取り入れ、自尊感情が高められるような取り組みを行っている。これらの活動を今後も継続することにより、一人ひとりが大切にされ、自分に自信をもって生活していけるのではないかと考えている。
 教職員の人権教育研修としては、性的マイノリティについての理解と学校における支援について研修を行い、多様な価値観を認め合う意識を高めた。継続して教職員の人権感覚・意識の向上を図っていく。

今年度の目標

「自分づくり」の活動を通して、自他を認め合い、心豊かな子どもを育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	○集団生活に必要な基本的な生活習慣について確認し、実践する。 ・「あいさつ」「廊下歩行」について取り上げ、気持ちのよい生活に必要であることを確認し、実践できるような取組を行う。 ・相手の気持ちを考えたよい行動について取り上げ、全体に広げていけるようにする。 ○たてわり活動を通して、他学年と発達段階に応じた関わり合いの機会をつくる。 ・たてわり集会や地域清掃を計画し、児童の関わり合いを広げられるようにする。 ○日常の教育活動において、児童相互の意見交流や認め合う活動を取り入れる。 ○児童理解を深めるためY-Pアセスメント(1回目)を行い、一人ひとりの児童について知り、必要に応じて適切な対応を行う。 ○校内で職員研修を行い、人権的な視点に立った関わり方を学ぶ。
下半期	○集団生活に必要な基本的な生活習慣について継続して実践し、習慣化できるようにする。 ・「あいさつ」「廊下の右側歩行」について取り上げ、気持ちのよい生活に必要であることを確認し、実践できるような取組を行う。 ・相手の気持ちを考えたよい行動について取り上げ、全体に広げていけるようにする。 ○たてわり活動を通して、他学年と発達段階に応じた関わり合いの機会をつくり、互いの思いを認め合い助け合う気持ちを育てる。 ・たてわり集会や運動会、全校遠足を計画し、児童の関わり合いを広げられるようにする。 ○人権週間でYPを活用して互いを認め合う活動を行い、自己肯定感を高められるようにする。 ○児童理解を深めるためY-Pアセスメント(2回目)を行い、一人ひとりの児童について知り、必要に応じて適切な対応を行う。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康・安全教育	①運動委員会を中心とした体力アップ週間を行い、体を動かすことの心地よさや体力の高まりを子どもたちが感じられるようにする。②岩崎すこやか会議(学校保健委員会)に全校児童が参加して、基本的な生活習慣への意識を高める。③避難訓練を月一回行い、全職員と子どもたちが様々な状況を想定して行動できるようにする。
担当	保健・安全部

健やかな体に関わる本校の状況

本校では、多くの子どもが休み時間には外遊びをしている。外ではボール遊びや鬼あそび、冬になると縄跳びをする子どももいてそれぞれが休み時間に運動できることを楽しみにしている。しかし声をかけないと中にいる子どもがいたり、外に出て遊んでいる児童の遊び方を見ていると、いろいろな遊びをするというよりは、同じ遊びをしていることが多かったりする。市平均と比較して、鉄棒の前回りや逆上がりの通過率が低くなっている。また、子どもによっての運動の経験の差が大きくなってきている。特に投げる動きの経験が少ない子どもが多い。
 ・避難訓練を月に一度実施し、非常時に落ち着いて行動できるように想定して行っている。地震、火災、不審者対応、そして近隣火災の想定で行い、放送を聞いて避難経路を判断できるようにしている。全体的に避難訓練の目的を意識して、しっかりと取り組むことができる。
 ・新型コロナウイルスが五類になり、子どもたちはこれまでに経験が少なかった長縄跳びや水泳学習に取り組んだ。制限があった後ということもあり経験がある子どもとない子どもでも二極化が進んでいる。
 ・令和5年度は学校保健委員会で「生活リズムを見直そう」をテーマに、睡眠・食事・運動の3つの視点で生活を振り返った。保健委員会の子どもたちから、それぞれのよさをテレビ放送で伝えてもらい、全校で一年間かけて取り組むことができた。

今年度の目標

体力アップにむけて継続的に取り組む中で、子どもたちが対話を通して体を動かすことの楽しさを感じられることを目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	○体力テストで今の自分の体力を知る。 ・体力テストを実施することで、自分の今もっている力を知ったり、昨年度からの体力の高まりを実感できたりするようにする。 ・体力アップ週間として体力テストの項目を行い、体力テストに意欲的に取り組めるようにする。 ○体育の授業を通して運動の楽しさを味わう。 ・年間の単元配列を確認して指導内容の見直しをもつ。単元で身に付けていく資質・能力を明確にして授業を行う。 ・運動が苦手な子どもも、得意な子どもも、運動の楽しさを感じられるような授業作りを行う。 ・見合いのポイントを明確に示すことで、子どもたちが対話をしながら学習を進めていけるようにする。
下半期	○運動会で日頃の学習の成果を発表する。 ・日頃の体育学習の成果を発揮できるようなプログラムを編成する。学習の成果を他学年や保護者、地域の方に見てもらうことで運動に対する意欲が高まるようにする。 ○体力アップ週間を行い、様々な運動を経験する。 ・短縄や長縄、マラソンなどの運動を休み時間に行い、日頃する機会が少ない運動を経験する。特に長縄は一年間継続して取り組み、自分の技能の高まりを感じられるようにする。 ○岩崎すこやか会議(学校保健委員会)を開催し、一年間の取り組みを振り返る。 ・一年間の取り組みを振り返り成果と課題を挙げて次年度へ引き継ぐ。